



心肺蘇生法の指針（ガイドライン）は、心肺蘇生に関するデータや科学的根拠を基に5年ごとに更新されます。新型コロナウイルス感染症の影響によりガイドラインの策定スケジュールが延期となりましたが、2021年3月末にガイドライン2020が公開されましたので、本追補版で主要な変更点をお知らせします。また、新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置について、併せてお知らせします。

ガイドライン2020の主要な変更点

	テキストページ
1. 傷病者の反応の確認について	P 4-2.
2. 119番通報時の通信指令員の口頭指導について	P 5-3.
3. 呼吸の確認と心停止の判断について	P 5-3.
4. AEDの使用適応年齢の区分について	P 13-3.
5. オートショックAEDの操作手順について	新規
6. 気道異物除去法の順番について	P 16.Ⅱ-4

1. 傷病者の反応の確認について

傷病者の反応を確認したとき、反応がない場合や、反応があるかないかの判断に迷う場合、又はわからない場合も、「**反応なし**」と判断して早期の119番通報・心肺停止の可能性があると考えて行動してください。

2. 119番通報時の通信指令員の口頭指導について

119番通報をして、使用する電話機等にスピーカー（ハンズフリー）機能があれば活用することで、通信指令員の口頭指導を受けながら、胸骨圧迫ができます。

3. 呼吸の確認と心停止の判断について

呼吸の確認と心停止の判断において、「普段どおりの呼吸か」どうか判断に迷う場合、又はわからない場合も、「**心停止**」と判断して胸骨圧迫を開始します。

4. AEDの使用適応年齢の区分について

AEDの電極パッドの標記が変更され、「成人」が「小学生～大人」に、「小児」が「未就学児」になりました。今回のガイドライン2020の改訂以前に配置されているAEDに関しては、「成人・小児」と標記されているので、AED使用時には十分注意してください。



メーカーにより切替スイッチや小学生～大人用・未就学児用パッドを交換する機種があります。

5. オートショックAEDの操作手順について

従来のAEDは救助者が使用する場合、救助者がショックボタンを押すことによって電気ショックが行われましたが、ショックボタンを有さない自動体外式除細動器（オートショックAED）が認可されました。

オートショックAEDは、AED本体に右記のロゴマークが表示されています。



オートショックAEDは、AED本体に上記のロゴマークが表示されています。

- (1) AED本体にオートショックAEDであることが、ロゴマークなどで表示されている事を確認する。
救助協力者が複数人いる場合は、オートショックAEDであることを伝えます。
- (2) AED本体の電源を入れる。機種によって電源ボタンを押すタイプや、蓋を開けると自動的に電源が入るタイプがあります。(※オートショックAEDに、ショックボタンはありません。)
- (3) 電極パッドを傷病者に装着すると自動的に傷病者の心臓のリズムの解析が始まるので、傷病者に触れないようにします。電気ショックが必要と判断されると、カウントダウン又は警告ブザーの後に電気ショックが行われます。(※救助者等がオートショックAEDであることに気づかず、傷病者から離れるのが遅れた場合、感電する恐れがあるので十分に注意が必要です。)

6. 気道異物除去法の順番について

気道異物除去法は、直感的でわかりやすく、傷病者へのダメージの少ない背部叩打法から行い、効果がなければ腹部突き上げ法（ハイムリック法）を行ってください。救助者が一人の場合、傷病者に意識がある場合は、119番通報より気道異物除去法を優先してください。

新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置について

胸骨圧迫のみの場合を含め、心肺蘇生はエアロゾル[※]を発生させる可能性があるため、すべての心停止傷病者に対し、感染の疑いがあるものとして対応してください。

※ ウイルスなどを含む微粒子が浮遊する空気

1. 安全の確認

救助者がマスクを正しく着用できていることを確認してください。また、人数に余裕があり、通報や救命処置を行わない人は、部屋の換気を行ったり、多人数が密集しないように配慮してください。

2. 反応と呼吸の確認

顔をあまり近づけすぎないようにして、反応と呼吸の確認をしてください。

3. 胸骨圧迫の実施

傷病者がマスクをしていれば、外さずに胸骨圧迫を開始し、傷病者がマスクをしていなければ胸骨圧迫を開始する前にマスクやハンカチ等で傷病者の口と鼻を覆ってください。

4. 人工呼吸について

傷病者が成人の場合は、人工呼吸は行わず、胸骨圧迫・AEDによる電気ショックを実施してください。

傷病者が小児・乳児の場合は、窒息や溺水など呼吸が原因の心停止が多く、人工呼吸の必要性が高いため、人工呼吸の技術を身につけていて、実施する意思がある場合には行ってください。

5. 救急隊引継ぎ後の対応

傷病者を救急隊に引き継いだ後は、すみやかに石鹸と流水で手と顔を洗ってください。手を洗うか消毒するまでは、不用意に首から上や周囲を触らないでください。また、傷病者に使用したマスクやハンカチ等は、直接触れないようにして廃棄してください。